

第18回 長時間透析研究会
ランチオンセミナー 1

透析患者の多様性に 透析プログラムを どう適応させるか

開催
日時

2023年 **11**月 **12**日(日) **12:40 ~ 13:30**

会場

第1会場
(九州大学医学部百年講堂 1F 大ホール)

座長

平方 秀樹 先生
(医療法人医心会 福岡腎臓内科クリニック)

演者

政金 生人 先生
(医療法人社団清永会 矢吹病院)

共催 第18回長時間透析研究会
東レ・メディカル株式会社

透析患者の多様性に 透析プログラムをどう適応させるか

政金 生人 先生（医療法人社団清永会 矢吹病院）

21世紀は患者中心の医療の時代と言われている。高齢化、価値観の多様化が進み、すべての医療の領域において、患者にとってメリットのあるアウトカムを設定して臨床や研究を行うということである。これまで我々は、生命予後や合併症などをアウトカムにしたRCTやコホート研究から、それらを改善させようと算出された指標や治療法をすべての患者に適応させてきた。しかし、こと治療プログラムに関する研究のエビデンスレベルは高くなく、EBMは時として担当医の主義主張に基づく医療にすりかわるリスクがあった。

長時間透析は生命予後がよい、オンラインHDFも生命予後を改善させる。だから、長時間オンラインHDFはよい治療に違いない。はたして、このような主張は科学的妥当性を有しているか？患者中心の医療のコンセプトに沿っているか？否、これだけではかなり危険な主張になりかねない。最低限担保しておく必要があるのは、透析後の疲労感がないこと、栄養障害が進行しないことである。そのうえで、患者が望むライフスタイルにマッチしているかどうかもう一つのポイントである。

保存的腎臓病治療(CKM)の中に緩和透析とでも呼ぶべき概念がでてくる。透析は週3回絶対やらなければならない治療ではなく、ある患者のその時の苦痛や愁訴を除去するためだけに用いられる。その時に皆さんはどんな透析プログラムを組み立てるだろうか。

我々は、るい瘦の進む高齢透析患者をNF-USシリーズで治療し、栄養状態の改善と透析後の疲労感の改善を認めた。この治療の低分子量蛋白の除去効果は、オンラインHDFで必要と言われているレベルよりはるかに低い。この経験は、低分子量蛋白除去効果に優れた治療では、患者にとってもっとも重要なアウトカムを達成できなかったということである。患者にとって大切なアウトカムは、その患者の価値観や希望、医学的状況に応じて異なるが、それを明確にしてそれを達成するために透析プログラムを工夫することが大切である。本講演では、透析患者の多様性と透析プログラムの考え方に関する私見を述べ、皆さんと意見交換したいと思います。